

107 明治時代 日露戦争後の国際関係

日本海海戦後の日露

日本は国力の限界で継戦不可能。

ロシアもレーニンの革命運動で継戦困難。

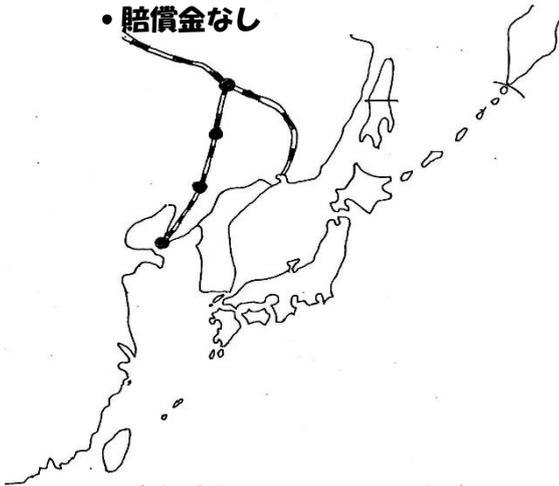
1905 **ポーツマス条約** (アメリカ東海岸)

仲介の労… **T・ルーズベルト** 米大統領

日本全権 **小村寿太郎**

ロシア全権 **ウイッテ**

- 日本の韓国保護権を認める
- **旅順・大連** の租借権譲渡
- **長春以南の鉄道** 及び附属利権
- **北緯 50 度以南の樺太** の譲渡
- **沿海州とカムチャッカの漁業権**
- **賠償金なし**



• 日本国民不満、怒り、がっかり

「国民に戦争協力させるだけさせといてこれか。政府は腰抜けだ。おいらもう、ポーツマス条約の内容聞いてから悔しくて夜も寝られねえ。」(ある大工の言葉)
「私の弟は 203 高地で戦死し、私は右手を失いました。政府は国民にこれだけの犠牲を強いておいてウイッテにはペコペコです。」(戦争協力なんてバカバカしくなりました。)

1905 **日比谷焼き打ち事件**

東京のあちこちが群集に破壊される。暴れまわる国民に政府なすすべなし。戒厳令が初めて発動 (天皇大権)

大衆行動が政治を変える大正デモクラシー開始

1908 **戊申証書** (桂太郎内閣)



元老山県の心配

国民が戦争協力を背を向けるようになってしまった。ロシアは必ず復讐してくる。もういちど、国民の戦争協力、日頃からの節約・貯蓄などの精神を呼びかけなければならない。

日本の安全保障のため、利益線である朝鮮半島から欧米列強の勢力を排除したい



日本の韓国保護国化について、

アメリカから承認を取付けた協定

1905→ **桂・タフト協定** (秘密協定)

イギリスから承認取り付けた協約

1905→ **第二次日英同盟協約改定**

日英同盟を軍事同盟に格上げ。イギリスは適用範囲の植民地インドまで拡大を要望、日本は悩んだが受諾。

1904 第一次日韓協約 日本人財政顧問

1905 第二次日韓協約 **統監府** 設置

韓国の外交権を奪い、韓国の外交を統轄する統監府を設置

1906 初代統監として **伊藤博文** 着任

1907 **ハーグ密使事件**

オランダのハーグで開かれた万国平和会議に韓国皇帝の高宗が密使を送り、韓国を助けてくれと列強に訴えた事件。

→ 第三次日韓協約

韓国内政権をも奪い、韓国軍を解散した。

1907 **義兵運動**

解散させられた旧韓国軍隊の兵士が民衆とともに各地で挙兵

1909 **韓国統監伊藤博文** 暗殺

満州のハルビン駅で、韓国人青年の **安重根** により暗殺。伊藤博文は韓国併合反対派のリーダーでした。

1910 **韓国併合条約**

韓国併合派の元老山県有朋により条約締結が推進されました。

1910 **朝鮮総督府** 設置

初代朝鮮総督 **寺内正毅**

長州出身の陸軍軍人

ハーグ密使事件

ハミング暗号

第三次日韓協約

アンジュンにより暗殺

韓国併合条約



朝鮮総督府の統治(軍政)

土地調査事業

朝鮮に近代的な土地制度、税制をしくために行った事業。所有権不明確を理由に多くの土地が総督府に没収されました。土地を失った朝鮮農民は、工業化が進む日本に渡り、大阪などで工場労働者となりました。大阪に多い在日朝鮮人のルーツの一つです。

東洋拓殖会社

総督府から朝鮮の土地の払い下げを受けて、朝鮮最大の地主となった半官半民の国策会社です。のちには南樺太や満州、日本の委任統治領となったパラオやサイパン島など太平洋のミクロネシアでも拓殖(開拓と植民)事業を行いました。